

## 基本設計方針に係るご意見と設計方針における記述

### 1 新庁舎の配置場所

#### (1) 配置場所の選定

| 検討委員会 ご意見  | 基本設計方針における記述   |
|--|--|
| <p><b>【アクセスについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置場所3で、L字型となった庁舎の方がよい。その理由として、モノレールから降りて近く、障害者にやさしい。また、これから高齢化が進んでいく中で、高齢者にもやさしい。</li> <li>障害者、高齢者などにも配慮して、モノレールから近い場所に庁舎を配置することが重要。</li> <li>既存庁舎を取り壊しながら建てるというのは大変だとは思いますが、できれば、モノレールから距離が少ない場所で、新庁舎の建設を考えてもらいたい。</li> </ul>   | <p>ア 本庁舎へのアクセス性</p> <p>モノレール市役所前駅に近接することにより、自動車（市民駐車場）でもモノレールでも、来庁者がアクセスしやすい動線を確保することができます。</p>  |
| <p><b>【本庁舎敷地について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置場所3であれば、国道側に広く余剰地として使える敷地があるのでよい。</li> <li>災害時はかなりの物資が必要となってくるので、余剰地などの屋外空間はそのままにしておき、物資の結節点として活用した方がよい。</li> </ul>   | <p>イ 本庁舎敷地の将来利用</p> <p>平成26年度及び今年度実施した民間市場調査において、敷地活用ニーズの高かった本庁舎敷地の国道357号線側の敷地を確保することが可能であり、かつ、新庁舎整備後においてモノレール市役所前駅からもアクセスしやすい動線を確保することができるため、民間活用をはじめ、将来的に有効利用しやすい部分を残すことができます。</p> |
| <p><b>本庁舎周辺エリアのまちづくりへの寄与</b></p> <p><b>【臨港プロムナードとの一体利用など】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置場所3であれば、新庁舎と並行しながら、臨港プロムナードを歩くことができる。県庁にしても、区役所にしても、ちょっと奥まわってわかりづらい場所に建っている。本庁舎はそうではなく、表に面して、「市役所がここにある」というイメージを持ってもらいたい。</li> <li>立地の特性を活かしながら、1階、2階は、臨港プロムナードなどの外部空間と連携してイベントができるような、一体的な空間となって欲しい。</li> <li>1階、2階の空間が臨港プロムナードに面することで、こういった空間、取組みがあるということを全市的に情報発信、知らせていくことが重要。</li> <li>配置場所3として、庁舎内の空間と臨港プロムナードを一体的に利用してほしい。</li> </ul> <p><b>【みなと公園との一体利用や活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配置場所3として、庁舎内の空間とみなと公園とを一体的に利用することとし、まちづくりの前例となって欲しい。</li> <li>配置場所3であれば、みなと公園側の道路も活用できる。</li> <li>せっかく、こういった立地なので、庁舎、みなと公園、道路が一体となった整備を行うべきである。</li> <li>みなと公園側に庁舎を建てて、公園と庁舎を一体活用する。みなと公園が見える場所にレストランやオープンカフェなどを設置すれば庁舎の外に活動を誘発できる。</li> <li>新庁舎の1階、2階のスペースと、みなと公園の両方を一体化できるような工夫をした方がよい。</li> <li>非常時の結節点として、広域避難場所であるみなと公園と庁舎の結びつきも重要。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」でも公的空間活用というキーワードが出ているように、外構と建物内の空間を一体的に、どう整備するか検討する必要がある。</li> <li>民間市場調査の結果を踏まえると、この場所の市場価値は限られている。その中で、まちづくりのコンセプトは出はじめているようであるが、千葉市の本庁舎としてどのように考えていくのが重要。</li> <li>本庁舎は、全市的な情報収集、発信の場となる必要がある。また、全国に向けてだけでなく、千葉の情報を千葉に発信していくという視点を持った情報発信の場とすることが重要。</li> <li>千葉市は、千葉市固有のモノで何かを売っていくのは厳しいだろう。そのため、周辺の施設だけではなく、県内のつなぎの拠点、千葉県内の結節点になるよう意識していく必要がある。</li> <li>ぜひ、「つなぎ」ということを、意識して事業を進めていって欲しい。</li> </ul> | <p>ウ 本庁舎周辺エリアのまちづくりへの寄与</p> <p>新庁舎を臨港プロムナードに面して配置することで、モノレール市役所前駅とみなと公園をつなぐ結節点になり、公共空間の利活用による賑わい誘導や回遊性の向上につながるなど、本庁舎周辺エリアのまちづくりに寄与することができます。</p>                                     |

## 基本設計方針に係るご意見と設計方針における記述

### 2 新庁舎の空間構成

#### (2) 立面的な空間構成

##### ア 1・2階

| 検討委員会 ご意見  | 基本設計方針における記述   |
|--|--|
| <p><b>【通常時利用について】</b></p> <p>①機能配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1階2階に1回聞けばすべて足りるような総合案内を作ってほしい。</li> <li>総合案内は機械化・音声化（外国語対応）で無人化して省スペースを図るべき。</li> <li>高齢者などは機械操作できないため案内に人はいるべき。人がいないと人が集まってこないということも。</li> <li>障害者、高齢者などにも配慮してモノレールに近い部分に庁舎を配置し、そこに障害者、高齢者が相談を受けられるようなスペース。</li> </ul> <p>②1・2階の空間の一体性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな吹き抜け等を設置することによって1階と2階を一体化させ、公開収録ができるような広いスペースを確保したらどうか。</li> <li>モノレールから来た人、みなと公園や駐車場から来た人、それぞれの方向から建物に入った時にロビー空間が一体的なものになっている。</li> <li>階段だけでなく、手すりやスロープを整備して、1階から2階へ回遊できるような使い方がよい。</li> <li>低層階は、開かれた空間として市民が集まって議論を行うというアゴラ的な空間イメージ。</li> <li>企画主体が作るイベント開催のため、あまりモノを作らず、オープンスペースとする。</li> <li>「つなぎ」として千葉県内の他市と提携するなど、県内の結節点になるような空間。</li> </ul> <p>③情報提供・情報収集・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マスコミへの情報発信としての広報機能。また、自らによる情報発信機能を持つかどうか要検討。市長の記者会見をやる場所は重要。</li> <li>本庁舎には、議会があり、市長が常駐している。その様子が見えるような情報発信をする施設が本庁舎に必要。</li> <li>情報発信機能もあるとよい。議会や市長、千葉市各区の情報収集・発信の場とする。</li> <li>千葉の情報を千葉に発信していくという視点を持った情報発信の場とすることが重要。</li> </ul> <p>④本庁周辺エリアのまちづくりへの寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントスペースとしても活用可能なロビーがあれば、人が来る場所となり臨港プロムナードの賑わいにつながる。</li> <li>新庁舎の1・2階のスペースとみなと公園の両方を一体化できるような工夫をした方がよい。</li> <li>みなと公園・臨港プロムナード・外部空間と連携しながらイベントができるような空間</li> </ul> | <p>(ア) 通常時利用における考え方</p> <p>建物利用者は、1階又は2階から建物へ入館します。</p> <p>そのため、ロビーや総合案内など、来庁者が本庁舎を円滑に利用するために必要な機能や、来庁者利用が多い機能を配置するとともに、来庁者がいずれの階から入館した場合でも、目的地までスムーズに移動できる動線を確保することを基本とします。</p> <p>さらに、1・2階のフロア間に一体性が感じられる空間とするとともに、ロビーは、建物内外からの視認性を確保するため広がりのある空間とし、各種イベントやセレモニーの開催、周辺企業・団体等との連携の場としての利用など、様々な市政の情報提供、情報収集・情報発信機能が果たせるよう配慮します。</p> |
| <p><b>【非常時利用について】</b></p> <p>①空間活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建物の中に入った時に意外性やわくわく感のような明るく楽しいイメージがあると、非常時にも避難者へ安心感を与えられる。</li> <li>災害時の一般市民、負傷者、帰宅困難者などの支援をする機能。救護やケアのためのスペースをロビーでやるならば広いスペース。</li> <li>非常時の転用を考慮すると、日ごろから建物が使えるよう、休日の1・2階フロア利用の検討が必要。全市的なイベント開催や、魅力的なレストランがあるなど。</li> <li>非常食を食べることのできるカフェなどを用意すれば非常時への意識を高められる。</li> <li>非常時に使える食料などの自動販売機や無人コンビニなどを置いてはどうか。</li> </ul> <p>②周辺企業・団体等との連携や協働活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時について、ボランティアの受付や特例措置の申請を行う市民の受付など対外的な窓口機能。</li> <li>非常時に、消防や警察、ライフライン企業やボランティア等のNPO等が協調して救助や復旧の意思決定や指示を行うエリアはバックに確保する必要がある。</li> </ul> <p>③情報提供・情報収集・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常時にマスコミに対して、避難状況や停電などの情報発信をしていく広報機能を用意する。その機能を平時から有事に、フレキシブルに切り替えられるように設計しなければならない。</li> <li>非常時に市長の記者会見をやる場所をどこでやるのかということも重要。</li> </ul> <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非常時には、災害対策本部として千葉市全体の頭脳となる機能が必要である。</li> <li>災害対応の頭脳にあたる部分は、一般の人が入れないバックオフィスに配置する必要がある。</li> </ul>   | <p>(イ) 非常時における考え方</p> <p>ロビーなどの大空間を活用し、一時的な避難者の受け入れや、応急・復旧時の作業スペースとして活用することを基本とします。</p> <p>また、周辺企業・団体等との連携や、様々な関係団体との協働活動を図るスペースとして活用するとともに、被災状況や復旧状況など、災害発生時における情報提供、情報収集・情報発信機能が果たせるよう配慮します。</p>   |